

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 京都府 |
| 推進地域名 | 京都市 |

## 1. 事業推進の体制

- ・京都府教育委員会、京都市教育委員会、地域女性会をはじめとする地域諸団体、PTA、京都市認定食育指導員、京都食育キャラバン隊、校区内にある京都三条会商店街振興会、京都市中央卸売市場、京都調理師専門学校、企業の栄養士や大学の教授などの方々をメンバーとして食育検討委員会を組織して、「食」に関する専門的な方々の知識や助言協力を得ながら、事業を推進した。
- ・校内研究部を中心に栄養教諭の指導・助言のもと教育計画を立案、検討し、食に関する様々な取組を通して家庭や地域との連携を図りながら食生活の改善を推進した。

## 2. 具体的取組等について

| テーマ1                             | ・豊かな体験活動と総合単元的な授業の質的向上を図る授業改善と授業実践<br>・規則正しい生活習慣を確立するための食習慣・運動習慣・生活リズム形成等の取組   |
|----------------------------------|--|
| ①児童・家庭・地域に根づく食育の推進を図る研究体制の見直しと構築 | <ul style="list-style-type: none"><li>・元気な体、豊かな心を育むための基礎となる規則正しい生活リズムやよりよい生活習慣を確立することを主眼とした食育検討委員会を設置し、その機能がより児童に反映できるための研究体制の見直しを図り、研究実践を行った。</li><li>・規則正しい生活習慣の確立をめざし、食育検討委員会のメンバーや同志社女子大学の研究室教授、学生と連携をして「早起き！朝ごはんプロジェクト」を実施し、早起きと朝食づくりのお手伝いと学校生活への関連性について分析・研究を行った。</li></ul>  |
| ②栄養教諭を中核とした取組                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・栄養教諭は食に関する指導の全体計画を作成し、学級担任・養護教諭等との連携をはじめ、地域や大学等との連携を図る等、本校食育推進の中核となって取組んだ。</li><li>・栄養教諭の専門性を生かし、学校給食を「生きた教材」として活用する指導の工夫を行った。</li><li>・学校給食法改正の趣旨を踏まえ、給食指導、総合的な学習、学級活動をはじめとして総合単元的な学習を構築し、学校教育活動全体の中でリーダーシップを発揮して食に関する指導の充実を図った。</li><li>・ランチルーム給食の機会だけでなく、学級での給食指導に積極的に関わり、よりよい食事のあり方や栄養バランスのとれた食事のあり方を子ども自ら体験していけるように指導した。</li></ul> |
| ③体験活動を重視した栽培活動                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・学年ごとに児童が野菜の栽培計画を立て、トマトやナス、きゅうり等の夏野菜の栽培活動を続けた。畑の耕しと肥料のすきこみなどの準備から苗の植付け、暑い季節の水やりや雑草抜き等を継続した栽培活動に取組んだ。</li><li>・活動や成長の記録がいつでも手軽に書けるように、はがきサイズの用紙を用意して、栽培記録として継続的に取組み続けた。</li><li>・収穫した野菜を使った調理活動も重視している。自分たちが育ててきた野菜の収穫を喜び、調理して食することで苦手な野菜にも進んで食べようとしたり、大切に野菜を扱おうとしたりするなど、食べ物や食べ物の生命を大切にしようとする児童が育ってきた。</li></ul>                          |
| ④児童会活動の充実                        | <ul style="list-style-type: none"><li>・給食委員会が中心となって、全校児童に正しい食生活や食事のマナー・栄養バランスのとれた食事などの啓発活動を校内放送やクイズラリー、児童朝会での発表等を通して継続して実施してきた。また、放送委員会が「ゲンキマン」の歌を給食の準備時間の音楽として位置づけ、校内放送を活用して活動した。</li></ul>   |
| ⑤他府県との食の交流を図る                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度夏に福井県若狭地方へ長期宿泊学習として4・5年生が滞在した。その時に見聞したことを生かして、地元の小学校と自分たちの小学校の生活の様子や、給食などの様子をテレビ会議システムを活用しながら交流することで、自分たちの住んでいる地域の特色やくらし、伝統などについて互いの児童が気づき理解していく学習を計画した。</li></ul>   |

## ⑥他校種との連携

- ・低学年の児童が総合的な学習の『秋のフェスティバル』に地域の幼稚園・保育園の園児を招待し、児童が栽培してきた「サツマイモ」を調理して、一緒に食べる活動をした。



## テーマ2

- ・学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取組
- ・家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究

### ①参観（日曜参観，一日参観等）・懇談，食育研究発表会，食育講演会等での食育に関する啓発の実施

- ・1年生保護者を中心に給食試食会を行った。学校給食のねらいや給食準備の手順や給食を通して指導している内容などを参観することで給食への理解を深めていただいた。
- ・児童だけでなく保護者も授業の主旨や内容について理解していただくために，6月の日曜参観や9月の一日参観日をはじめ，参観日には全学年が「食に関する指導」を設定して授業を行い，保護者や参観者に食の大切さを啓発してきた。
- ・家庭教育学級とPTA教養講座の共催でガス会社の栄養士を招いて講演「料理で脳を活性化」と実技を行うなど，地域や保護者の方への啓発活動を実施した。



### ②食に関するアンケート調査の実施（年間2回）

- ・主にPTAの活動として食に関するアンケートを実施した。学校での食に関する指導がどのように家庭で実践され，活用されているか，現状を分析して課題を見つけ，全教職員で共通理解を図るとともに，今後の食に関する指導の授業改善に役立てるようにした。

### ③「早起き！朝ごはんプロジェクト」の推進

- ・児童にプロジェクトの主旨の意識付けと行動の定着をめざしてポイント制を導入した。
- ・早起きしてお手伝いをする前と後では「学習への集中力」等に改善が見られた。

## テーマ3

- ・食育に関わる地域素材の有効活用を図った地域ぐるみの食育推進事業の取組
- ・学校と地域及び食育を支援する大学や企業等との連携による食育の充実のための取組

### ①地域の人材・食材・環境を生かした地域ぐるみの食育推進事業の実施

- ・地域女性会の協力を得て，児童が収穫したさつまいもを使った京都の伝統料理，いわゆる「おぼんざい」料理を教えていただいた。一緒に調理実習を行い，できた料理と一緒に味わいながら交流を深めた。
- ・地域にある三条会商店街のお店の協力を得て『三条会商店街食育ウォークラリー』を実施した。お店をめぐり，お店にある商品の中から関心のある食材を探したり，商品についてお店の方に教えていただいたりしながら，お店の人との交流を深めることができた。

### ②すこやか給食交流会の実施

- ・「味菜（アジサイ）給食」と命名し，地域の社会福祉協議会と連携をとり，地域のお年寄りを招待し，給食を通して3年生の児童とお年寄りが交流して楽しい給食を味わっていただいた。お年寄り自分たちのころの給食と違って栄養バランスのとれおいしい味の給食に感心されていた。



### ③乳製品を使った朝ごはんづくりの実施

- ・土曜チャレンジ学習の一環として，乳業会社の協力を得て，子ども達ができる乳製品を使った朝食づくりということで，簡単でかつ栄養バランスのとれた朝食づくりを体験した。

### ④豊かな食生活を送るための取組

- ・土曜チャレンジ学習の一環として，清水焼の窯元の協力を得て，作陶体験を実施した。
- ・2年生が福井県小浜市のおはしづくりの工房から職人さんを招き，おはし作りの体験を行った。「マイはし」を活用して自分達の食生活への関心を高めることができた。



### ⑤学校医・薬剤師・京都市中京保健所の管理栄養士との連携

- ・学校保健委員会で児童の食に関するアンケート結果を報告，保護者によるアンケート分析も報告し，学校医からアドバイスや示唆を頂くことができた。

### ⑥同志社女子大学や関係機関との連携の推進

- ・「早起き！朝ごはんプロジェクト」のねらいについて大学の教授や研究室と連絡を取り，栄養教諭・養護教諭が中心

となり、協議をしながらアンケートの検討と集計・分析にあたった。

## テーマ1～3に共通する具体的計画

### 栄養教諭を中核とした食に関する指導の展開

- ・年度当初に各学年の食に関する年間指導計画を作成して、授業実践と給食指導を継続して実施した。ランチルームでの給食指導で、望ましい食生活のルールを体験することを通し、実践的な態度の育成を図った。授業実践では、教科・道徳・特別活動総合的な学習の時間（たけのこやま学習）、その他あらゆる教育機会をとらえ、関連付けた総合単元を組んで展開した。
- ・栄養教諭は、授業案の作成にあたり、学級担任や研究部と連携をとりながら、栄養教諭としての専門性を生かして助言・指導した。



### 朝ごはん・生活点検実態調査の実施

- ・「生活リズム調べ」に加え、朝食をしっかりと摂ることの効果を検証し、早起きすることを子ども達へ定着させるための手立てとして、「早起き！朝ごはんプロジェクト」を継続して実施した。

### 食育の取組の理解

- ・地域、PTAと連携し、「洛中ハーベストフェスティバル」を実施して、家庭と一体となって食育の推進に向けアピールをした。
- ・11月26日の研究発表会を保護者・地域への情報発信と位置づけ、授業公開し多くの保護者・地域の方々の参加を呼びかけた。
- ・食育指導員や食育キャラバン隊・地域女性会などの協力を得ながら、担任や栄養教諭と連携をして調理実習や食に関する指導などの授業展開を図った。

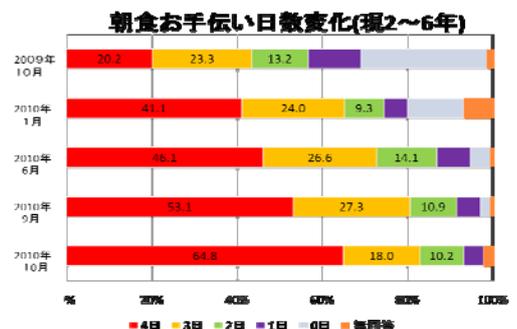
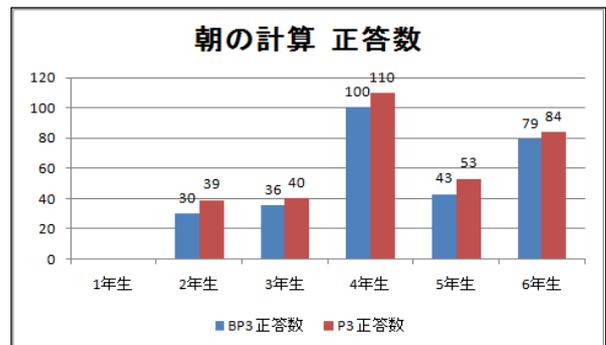


## 数字で変化のあった事項について

「早起き！朝ごはんプロジェクト」を実施して6月の調査では、全校児童で昨年度より平均5分程度起床時刻が早くなるという結果が得られた。その分子ども達の意識として、「学習に集中することができる」に「ぴったり当てはまる」と感じている児童が77%と、10%あまり増加し、「まあまあ当てはまる」を含めるとほとんどの子ども達が学習に集中できると回答している。

また、その表れとして「朝の計算 正答数」でも学年のばらつきはみられるものの、1割前後の向上を見る事が出来た。

家庭においても、朝食のお手伝い日数の変化を見てみると、プロジェクトを進めるにつれて日数が増えていることがわかる。4日と回答している割合が、当初の約3倍以上になっているように、子どもたちの意欲面での変化も大きいといえる。家庭での子どもたちの変化により、保護者の方からも全体として好評を得ることができ、本校の食育の活動に大きな理解を示していただいた。



## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

栄養教諭が食に関する全体計画を作成し、食育推進のコーディネーターとして、大学との小大連携をはじめ、いろいろな外部機関と連絡、連携を図りながら取り組んできたことで、次のような効果が見られた。

- ・「早起き！朝ごはんプロジェクト」の実施は、実施当初、保護者からの学校への問い合わせもあったが、児童がよい結果を見せ始めると協力的になり、最終的にはバランスのとれた食生活につながったり、学習にもよい影響を与えたりする等、児童だけでなく保護者にも取組んだ効果が実感できた。

保護者からのコメントは「食事や買い物などを積極的にしてくれるようになった。」「一緒に朝ごはんを作ることによって会話が增进了。」「早起きして、栄養バランスを考えて調理をしたり、料理に関心を持ったりすることは、よいことだと思う。」「早く起きることができるし、しっかり朝食を食べられるので、これからも続けてほしい。」といったものであり、全体としてたいへん好評であった。

- ・栽培活動では、栽培から収穫・調理と、地域の方の協力を得て体験学習がより充実した活動になった。栽培して収穫で終わるのではなく、調理して食べるという活動が、実践力へつながっていくと考え、これからも大事していきたいと考える。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

「早起き！朝ごはんプロジェクト」の「朝ごはんは何を食べたか」の項目でみたときに、主食・主菜・副菜のバランスのとれた朝食を摂っている児童の比率が下がってしまった。早起きをして朝食作りのお手伝いをする事でバランスのよい食事ができるかと考えていたが、この結果の検討をしているところである。今まで「バランスの摂れた食事」を摂る事に指導の重点があったものが、「お手伝い」に指導の重点が移った為に、子ども達の意識が薄れてしまったのかもしれない。今後の指導のあり方を検討し、調査を継続していきたい。子ども達が「よりよい食習慣」を身につけ、自分の力として実践していけるための方策を検討していこうと考えている。